

日本の誇りを忘れないで

千葉県 専修大学松戸中学校 2年 橋本 梨瑚

2013年12月4日。和食がユネスコ無形文化遺産に登録されました。そのとき、ユネスコ無形文化遺産となるほど素晴らしいものだと私は思ってもいませんでした。

今年の特別テーマ、「伝えたい日本のこころ～外国の方との出会いを通じて～」を考えたところ、先ほど述べた「和食」が頭に浮かんできました。

さて、和食はなぜユネスコ無形文化遺産に登録されたのでしょうか。その答えが私なりに明確になったできごとがありました。

2016年7月31日。家族旅行でハワイに行きました。そこで出された食事は日本とは違うものでした。アメリカらしい大胆さや、サービス精神が旺盛で、細かいことを気にする素振りがありませんでした。（日本だったらきつとこうなのに）ということが多く、改めて日本の見えない気づかいというものを知りました。

例えば、客のこと、先を見据えた行動、料理にも表れる繊細さや見た目の美しさ、健康を考えたバランスなどなど、外国との関わりがなければその素晴らしさに気がつくことができませんでした。

和食の特徴としては、多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重、健康的な食生活を支える栄養バランス、自然の美しさや季節の移ろいの表現、正月などの年中行事との密接な関わりなどの4つです。これは和食だけの特徴ではなく、日本人そのものの特徴なのではないかと思います。この繊細さや気づかいこそ、小さな親切だと感じました。

しかし、今の日本から和食が消えつつあるのも事実です。日本人は主に洋食を食べるようになり、この素晴らしい和食が忘れ去られてきています。ユネスコ無形文化遺産にも登録されている和食。日本の誇りである小さな親切が消えてしまうのは残念です。この小さな親切を世界中に広めたいと思いました。

2020年7月24日。東京オリンピックの開会式です。この日から約2週間、8月9日まで外国人との関わりが急激に増します。このとき、すでに私と私の同級生たちは17、18歳といった選挙権をもてるほどの年齢となり、世の中で活躍できます。この機会に、日本の誇りである和食を人々に此の上とも広め、世界にこの小さな親切を知ってほしいです。

日本人の繊細さ、気づかいを生かして、私たちが貢献することのできる東京オリンピックで、日本人らしい大和撫子の小さな親切を今年の特別テーマ、「伝えたい日本の心」として世界中に広めたいです。そのためにも日頃からの気づかいや思いやりを忘れず、小さな親切を意識した行動を会員なりに努力していきたいと思います。